

6月22日(月曜日)と26日(金曜日)に愛知東邦大学の歴史学の講座で出前講義を行いました。講義に参加した学生は月曜日が80名ほど、金曜日が50名ほどでした。



講義風景

まずは、考古学の概説を行った後に焼物の歴史を解説し、講座に参加している学生たちに6ないし7グループに分かれてもらい、実際に遺跡から出土した土器、陶器などを時代順に並べてもらいました。正確に時代順に並べるのに苦労している学生が多いようでした。



土器を並べる実習

その後、江戸時代以降の遺跡から出土した陶器製の戸車をグループごとに手渡し、先ほどの焼物の歴史の解説を思い出しながら、各自あらかじめ用意していた記録用紙に、材質は何か？いつの時代のものか？何に使用したか？を考えて記入してもらいました。学生たちは遺物を手に取りながら真剣にメモをとっていました。

次は舞盤式の火おこし器を使った火おこし体験です。以前の講義で体験したことがあると聞いておりましたが、その時にうまく出来なかった学生たちは今回こそ火おこしに成功してみせるとかなり意気込んでおりました。多くの学生は煙を出すことに成功し、中に火種を発生するまでに至った学生もいました。



火おこし体験

最後に朝日遺跡から出土した弥生土器を使った実習です。円窓付土器と壺を並べ、間近に見て交互に触れたり持ったりして、その違いを記録用紙に記入し、円窓付土器は何に使ったかを考えてもらいました。多くの学生は実際に土器に直接触れることがないので、土器の感触、重さなどに驚いていました。



円窓付土器に触れる実習

埋蔵文化財調査センターでは、遺跡から出土した「活きた教材」を活用した研修や体験学習を行っています。大学だけではなく、小中学校や高校への出前授業や地域の学習会、勉強会にも条件などが調整できれば伺います。ご希望の学校、組織は埋蔵文化財調査センターへご連絡ください。

6月18日 石器の実測に研究者が来訪しました。

調査研究課の輪飼です。

6月18日、名古屋博物館の川合剛さんが、市史編さん関連の調査として、下山の発掘調査で出土した有舌尖頭器(ゆうぜつせんとうき)について、観察と実測に訪れました。

有舌尖頭器は槍の穂先の形をした石器の一種で、取り付け部分に茎(なかご)を持つことが特徴です。形から有茎(ゆうけい)尖頭器とも呼ばれ、旧石器時代の末から縄文草創期(そうそうき)にかけて発達しました。下山でも花ノ木(はなのき)遺跡で旧石器時代末期(約13,000年前)のものがみつかっています。下山テストコースの発掘調査では猪移り(いづり)遺跡・栗狭間(くりはざま)遺跡から出土しています。

石器の実測には詳細な観察が欠かせません。石材をどのように割って形を整えているか、石器のあらゆる面を観察します。時には写真を撮影し、あとで確認できるようにします。



写真撮影の様子

観察を終えたら、石器の実測に移ります。石器の長さや幅などを測り、石器の細かい特徴も丁寧に記録します。こうした記録をもとに、その石器がいつの時代に作られたかを判断します。



実測の様子

知立市立知立東小学校で出前授業を実施しました。

調査研究課の輪飼です。

5月26日、知立市立知立東小学校6年生2クラス57名を対象に、体育館で出前授業をおこないました。昨年に続いて2度目となり、私と佐藤調査研究課長の2名で伺いました。



知立東小学校の校舎

5時間目は最初に、佐藤調査研究課長から愛知県清須市から名古屋市にかけて所在する、弥生時代の集落遺跡として知られる朝日遺跡と出土遺物の説明を行いました。出土遺物の一部は、重要文化財に指定されています。



授業風景

その後出土した土器や石器に触れてもらい、時代を感じてもらいました。子供たちは熱心に遺物を観察していました。



出土遺物を説明しています



土器に触れてみる

6時間目は火おこしの体験を行いました。はじめに使い方の説明を行ったのち、グループに分かれて火おこしに挑戦してもらいました。すぐに煙の出る子供もいれば、なかなか苦戦する子供もいましたが、全員が楽しそうに挑戦していたのが印象的でした。



火起こし体験の様子です

当センターでは、保管している土器や石器などを使った「出前授業」を実施しています。「出前授業」を希望する場合は、下記までご連絡ください。

愛知県埋蔵文化財調査センター（担当 編飼）

所在地 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24

電話 0567-67-4164 Fax 0567-65-1841

メール maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp

豊田市立幸海小学校で出前授業を実施しました。

愛知県埋蔵文化財調査センター(以下、調査センターという。)では今年度も、愛知県内の遺跡から出土した遺物などを使い、歴史を体感してもらう出前授業を普及啓発事業の一環として実施していきます。

さて、その第1回目として、4月18日(土曜日)に豊田市立幸海小学校で朝日遺跡出土の土器を使用した出前授業を行いました。その時の様子を報告します。



幸海小学校

4月18日(土曜日)、幸海小学校の6年生の1眼目の授業で、朝日遺跡出土の弥生土器を使った出前授業を行いました。当日は授業参観も実施されており、多くの保護者の方々が授業を参観されました。

授業はまず、6年生の担任である加藤孝浩先生が前回の授業のおさらいを行った後に、調査センターの職員が朝日遺跡の様子をイラストにしたもの等を使い、朝日遺跡が教科書にある吉野ヶ里遺跡や板付遺跡に負けないほどの弥生時代の遺跡であること等を説明しました。



イラストで朝日遺跡を紹介

次に弥生土器の説明を行った後、遺跡から実際に出土した円窓付(まるまどつき)土器と、円窓のあいていない壺の2点の土器に触れ、土器がどのように使われたかを考える時間を設けました。児童たちは土器に触れたり持ったりして、友だち同士で色々相談していました。また児童たちが考えている時間を利用して、参観している保護者の方にも土器に触れていただきました。



児童の活動の様子



保護者の方にも触れていただきました

最後に、児童たちに円窓付土器の使用法について聞いてみましたが、残念ながら途中で授業が終了してしまいましたので、家で考えてもらうことにしました。特に授業参観に保護者の方が参加されていた児童には、一緒に考えてみるように伝えました。

後日、担任の加藤先生が児童、保護者の方から提出された円窓付土器の使用法と授業の感想を送付していただきました。使用法については以下のとおりです。(複数回答)

1: 容器として使用した。 22

- ・食べ物などを入れる 8
- ・お供えものを入れる 5
- ・遺骨を入れる 3

他に花、魚、貝殻などを入れる

2: 照明(明かり)として使用した。 5

- ・ろうソクを入れる。 5

3: コンロとして使用した。 2

その他

- ・まよけとして 2

他に日時計、暖房具、魚を捕まえる道具、米を洗う道具などとして使用した。

面白い意見として「(リコーダーを吹いたら)ヘビがでたりして」とあり、想像してニンマリ、笑ってしまいました。

土器を説明する際に、円窓付土器を説明する際、村の中の堅穴住居から出土する例もあるが、お墓のそばから出土する例が多いことを説明していましたので、「お供えもの」、「遺骨」、「まよけ」などの意見が多い結果となったと思います。色々な意見を書いてもらい、生徒たちの無限の創造性に感心した次第です。

授業の感想については、遺跡から出土した土器に触れたことについて、「よかった」、「今後も実施して欲しい」などの意見をいただきました。加えて、「保護者にも資料を用意して欲しい」、「他の触れる資料も検討して欲しい」などの意見をいただきましたので、今後の出前授業を進めるなかで参考にさせて頂きたいと思います。

なお、調査センターでは、保管している出土遺物を活用した「活かした歴史授業」を今後も進めていきます。発掘調査で出土した旧石器時代から江戸時代までの資料等を使い、小学生から大学生、一般の方々を対象に、授業、講義、研修などを行います。ご希望の方は、調査センターに連絡願います(但し、諸事情で日程調整を要したり、ご希望に添えない場合等もありうることをご了承ください)。

4月17日、赤彩土器に使われた顔料の調査に、研究者が来館しました。

調査研究課の編飼です。弥生時代から古墳時代前半にかけて、パステル土器と呼ばれる赤彩土器が、愛知県内を始め東日本各地で出土します。この土器を彩る赤い顔料は、何を原料としているのでしょうか。

4月17日(金曜日)、九州国立博物館の志賀先生が来館されました。古墳時代初頭の遺跡として知られる清須市廻間遺跡(はさまいせき)で出土した赤彩土器の顔料の観察と、試料の採取が目的です。